

岡山県感染症週報 2016 年 第 46 週 (11 月 14 日 ~ 11 月 20 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

12 月 1 日は『世界エイズデー』です

◆2016 年 第 46 週 (11 / 14 ~ 11 / 20) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 45 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 男)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 男)
 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (70 代 男)
 梅毒 1 名 (20 代 女)
- 第 46 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 高校生 女 1 名、50 代 女 1 名)
 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 2 名 (70 代 女 1 名、80 代 男 1 名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 100 名 (定点あたり 0.48 → 1.85 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 628 名 (定点あたり 11.19 → 11.63 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザは、県全体で 62 名 (定点あたり 0.30 → 0.74 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。

【第 47 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 8 施設でありました。(11 月 21 日~22 日)

1. **12 月 1 日は『世界エイズデー』です。**岡山県では『世界エイズデー (12 月 1 日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動及び全ての保健所・支所で夜間等の HIV 抗体検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 46 週に 2 名の報告があり、2016 年第 46 週まで (~11/20) の報告数は 63 名となりました。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、発生報告が多いのは夏季ですが、依然として患者の発生が続いています。ひきつづき手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 100 名 (定点あたり 0.48 → 1.85 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域 (0.67 → 8.33 人)、倉敷市 (0.45 → 2.91 人) で急増しており、特に美作地域では、定点あたり報告数が 8 人を超えたため、発生レベル 3 となりました。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。就学前から学童期にかけての小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
4. **感染性胃腸炎**は、県全体で 628 名 (定点あたり 11.19 → 11.63 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域 (21.50 人)、倉敷市 (15.00 人)、岡山市 (11.64 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、定点あたり報告数が 20 人を超えたため、発生レベル 3 となりました。小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、手洗いや下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。
5. **インフルエンザ**は、県全体で 62 名 (定点あたり 0.30 → 0.74 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ「[2016/2017 年シーズン インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★★★★★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	↑	★★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★★★★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	↓	★
手足口病	→	★★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	→	★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↓	★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★★★
マイコプラズマ肺炎	↑	★★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 →：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↓：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

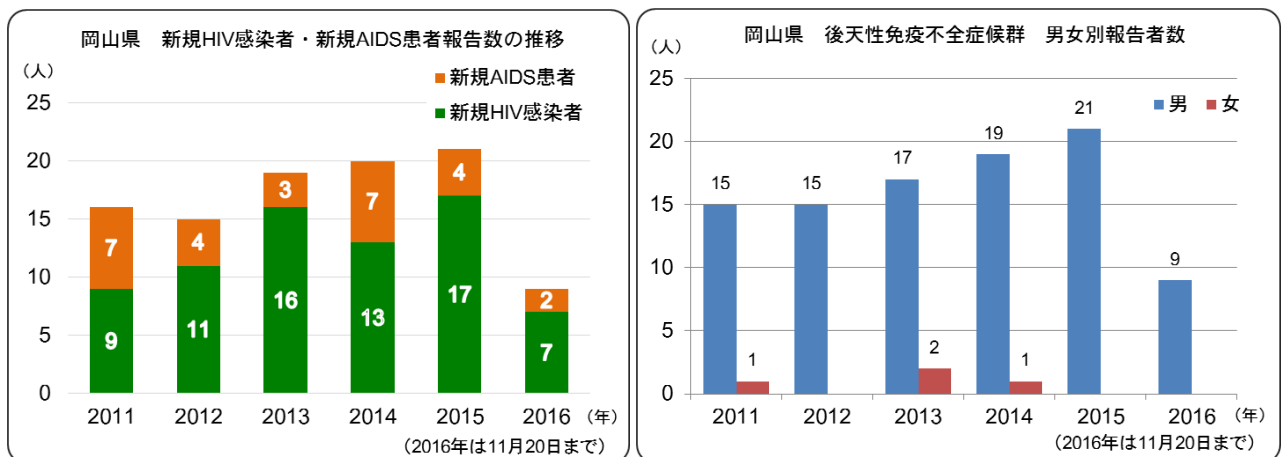
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

後天性免疫不全症候群（AIDS）

【岡山県の発生状況】

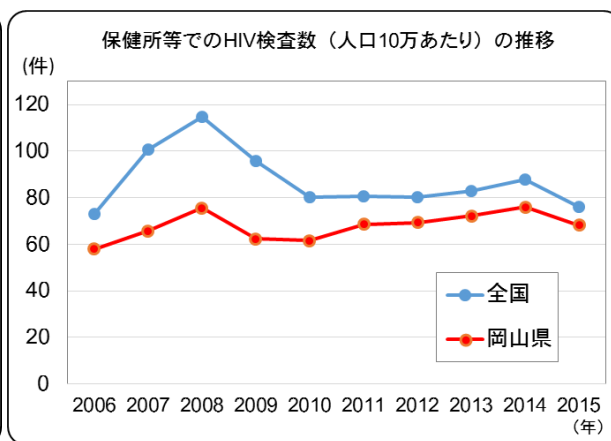
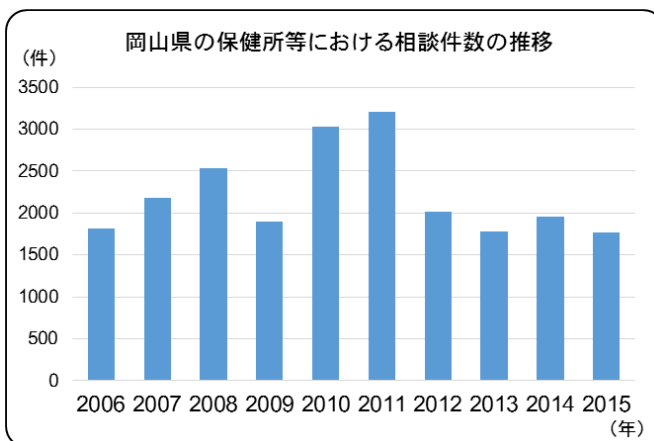
エイズ発生動向調査によると、2015 年の岡山県内の HIV 感染者は 17 件、AIDS 患者は 4 件でした。2012 年以降、新規 HIV 感染者・新規 AIDS 患者報告数は、3 年連続で増加しています。2016 年の発生状況については、11 月 20 日までに報告された HIV 感染者は 7 件、AIDS 患者は 2 件であり、性別はすべて男性でした。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 27(2015)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2016 年のデータを追加して作成

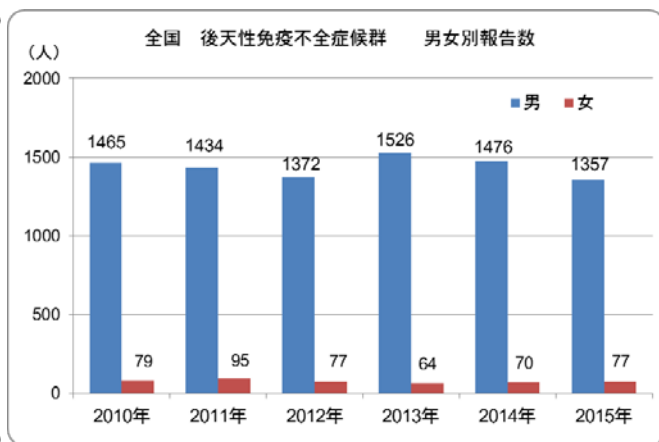
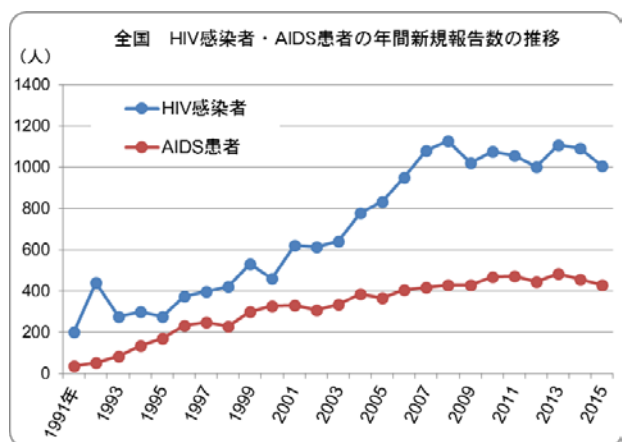
【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所等における相談件数は、2011 年まで増加傾向にありましたが、2012 年以降、2,000 件程度で推移しています。ちなみに 2015 年には、前年（1,955 件）を下まわり、1,771 件にとどまりました。また保健所及び拠点病院での HIV 検査数（人口 10 万あたり）は、2010 年以降、横ばいでしたが、2015 年（68.3 件）には、前年（75.9 件）を下まわりました。



【全国の発生状況】

HIV 感染者及び AIDS 患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。2015 年エイズ発生動向年報によると、HIV 感染者の新規報告数は 1,006 件（前年 1,091 件）でした。2007 年以降、年間 1,000 件を超える報告がされており、ほぼ横ばいで推移しています。AIDS 患者の新規報告数は、428 件（前年 455 件）と、2006 年以降、年間 400 件以上に上っており、2010 年以降横ばい状態が続いています。都道府県別でみると、2015 年 HIV 感染者報告数（人口 10 万あたり）は、東京都（2.718）、大阪府（1.901）、沖縄県（1.196）の順で多くなっています。また、AIDS 患者報告数（人口 10 万あたり）は、香川県（0.917）、沖縄県（0.704）、高知県（0.678）の順で多くなっています。中国・四国地方では前年より増加しており、岡山県は HIV 感染者報告数（人口 10 万あたり）で全国第 4 位（0.884）となっています。感染経路では、HIV 感染者の 68.7%、AIDS 患者の 58.4% が、同性間性的接触による感染でした。なお、HIV 感染者、AIDS 患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも 1% 未満にとどまっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 27(2015)年 エイズ発生動向データより作成

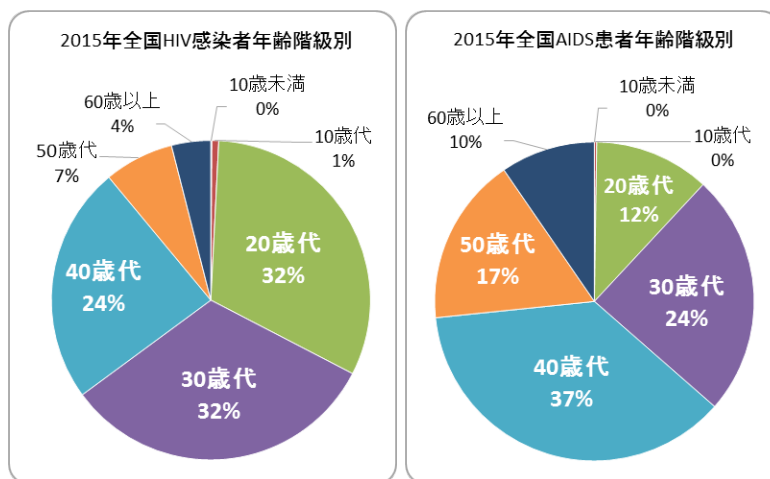
2015年 人口10万あたり報告数におけるHIV感染者・AIDS患者 上位10位の自治体

HIV感染者報告数（上位10位）		
順位	自治体	人口10万あたり報告数
1	東京都	2.718
2	大阪府	1.901
3	沖縄県	1.196
4	岡山県	0.884
5	愛知県	0.832
6	徳島県	0.785
7	奈良県	0.727
8	宮崎県	0.718
9	香川県	0.714
10	岐阜県	0.686

AIDS患者報告数（上位10位）		
順位	自治体	人口10万あたり報告数
1	香川県	0.917
2	沖縄県	0.704
3	高知県	0.678
4	宮崎県	0.628
5	大阪府	0.600
6	愛知県	0.577
7	福岡県	0.530
8	東京都	0.530
9	岐阜県	0.490
10	滋賀県	0.424

厚生労働省エイズ動向委員会 平成 27(2015)年 エイズ発生動向データより作成

年齢階級別では、HIV 感染者は 20～40 歳代で多くなっています。また AIDS 患者は、20 歳以上の各年代に分散していますが、特に 40 歳代で多くなっています。HIV 感染者の年齢階級別感染経路では、いずれの年齢階級においても同性間性的接触の割合が最も高く、年齢が上がるにつれて異性間性的接触の割合が高くなる傾向がみられます。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 27(2015)年 エイズ発生動向データより作成

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

AIDS は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝AIDS というものではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、AIDS 発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することで AIDS 発症を予防することが可能になっています。

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、はじめて感染の有無を確認することができます。

【感染経路】

HIV の主な感染経路は、次の 3 つです。

(1) 性行為による感染

HIV は感染者の血液や精液、膣分泌液内から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口から体内に入ることによって感染します。

(2) 血液を介しての感染

依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用などによって感染します。なお、血液凝固因子製剤については、加熱処理が行われているため、現在の血液製剤で感染する心配はありません。

(3) 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。日本では、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を 1 % 以下に抑えることができます。

【予防方法】

性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV 感染／AIDS 予防にとって最も有効な手段です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

[・エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)

2016 年 12 月 1 日 世界エイズデー

『知っていても、分かっていても AIDS IS NOT OVER』



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が 1988 年に制定したもので、毎年 12 月 1 日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

[・API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2015 年までに報告された HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数と AIDS（後天性免疫不全症候群）患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、25,000 件に達しました。地域的、年齢的にもひろがりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV 感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

AIDS 患者 …… 受診時、すでに AIDS を発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS 患者として報告されたもの（※いきなりエイズ）。
（既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、AIDS 発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。

HIV 感染後 AIDS 発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

12 月 1 日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。

[平成 28 年度 保健所における世界エイズデー関連 HIV 夜間検査等実施日時](#)

- 岡山県では、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を 3 つの柱として、全県を挙げて、HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成 25 年度から実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

- 岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査・性感染症相談はこちらから

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

- エイズ治療拠点病院の HIV 検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

HIV 検査について

HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。HIV に感染してから AIDS 発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期がつづくため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIV は、たとえ感染しても感染を早期に発見すれば服薬等をつづけることで、AIDS の発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。もし HIV 検査で感染していることがわかった場合でも、県内 10 ヶ所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	抗体検査	備前・美作保健所 即日 (約 1 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 3 ヶ月経過後	無料	必須	匿名 性感染症検査も同時に 受けられる
		その他の保健所・ 支所 1 週間後				
拠点病院	抗原抗体検査	即日 (1～2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1,000 円	必須	匿名では受けられない

HIV 等、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください!

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV 等、性感染症の検査は、保健所および医療機関などで受けてください。

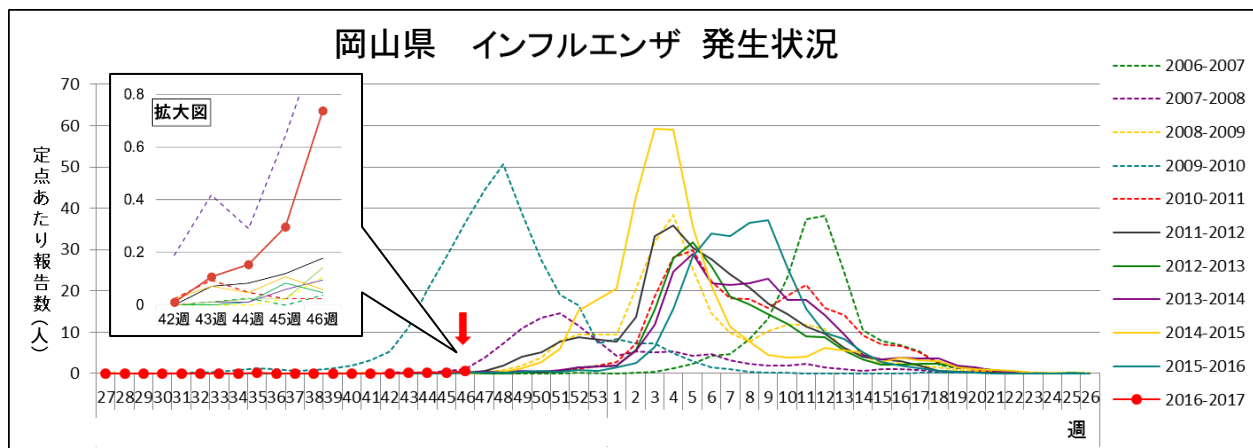
インフルエンザ週報 2016 年 第 46 週 (11 月 14 日 ~ 11 月 20 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 62 名（定点あたり 0.74 人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 1 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 47 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 8 施設でありました。（11 月 21 日～22 日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 62 名（定点あたり 0.30 → 0.74 人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、備北地域（5.83 人）、美作地域（1.30 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域と美作地域では、インフルエンザの流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を上まわりました。真庭地域を除く全ての地域で患者の発生がありますが、特に備北地域（0.50 → 5.83 人）で、急激に増加しています。インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、第 47 週にはインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 8 施設でありました。今後の県内の発生状況に注意するとともに、外出後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

[IDWR 速報データ 2016 年第 45 週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

[平成 28 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンは、効果が現れるまで 2 週間程度かかります。

本格的な流行がはじまる 12 月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

○定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。

定期予防接種対象者

- * 65 歳以上の方
- * 60～64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

○定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 流行するウイルスの型は、シーズンにより変わるため、毎年接種する必要があります。

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

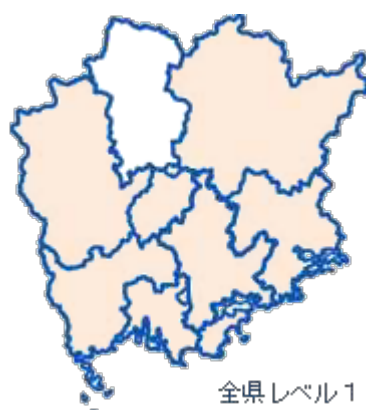
1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	62	↑	備 中	患者数	1	↓
	定点あたり	0.74			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	1	↓	備 北	患者数	35	↑
	定点あたり	0.05			定点あたり	5.83	
倉敷市	患者数	10	↑	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	0.63			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	2	↓	美 作	患者数	13	↑
	定点あたり	0.13			定点あたり	1.30	

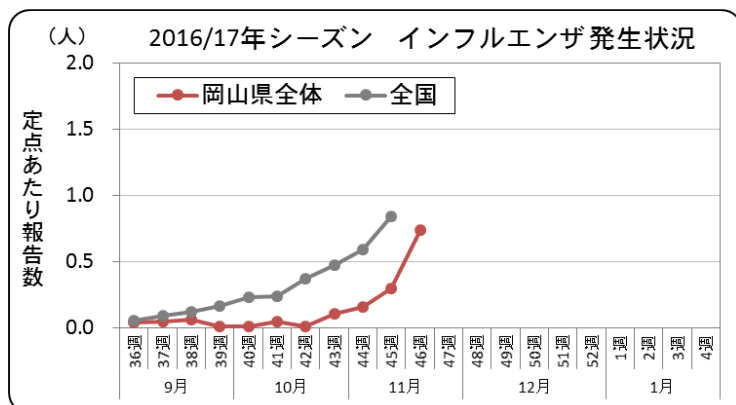
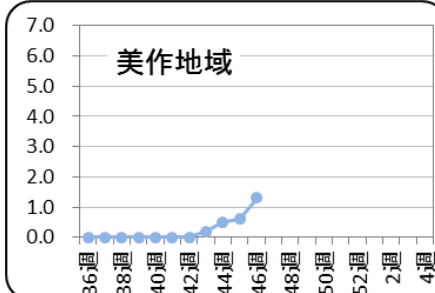
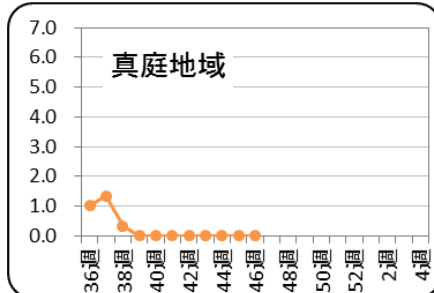
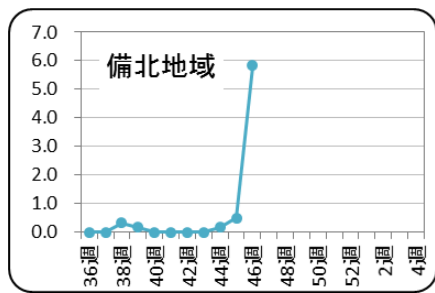
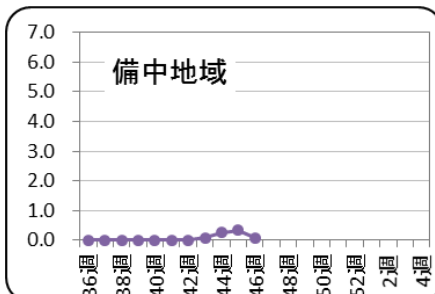
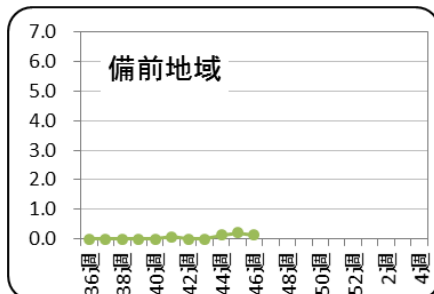
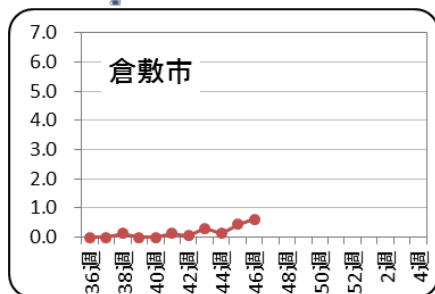
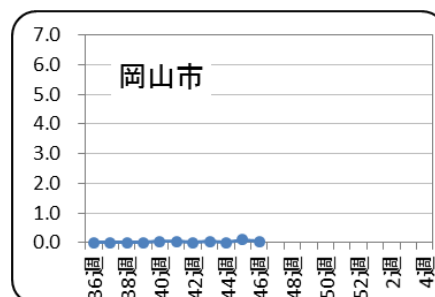
【記号の説明】 前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↑：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↓：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

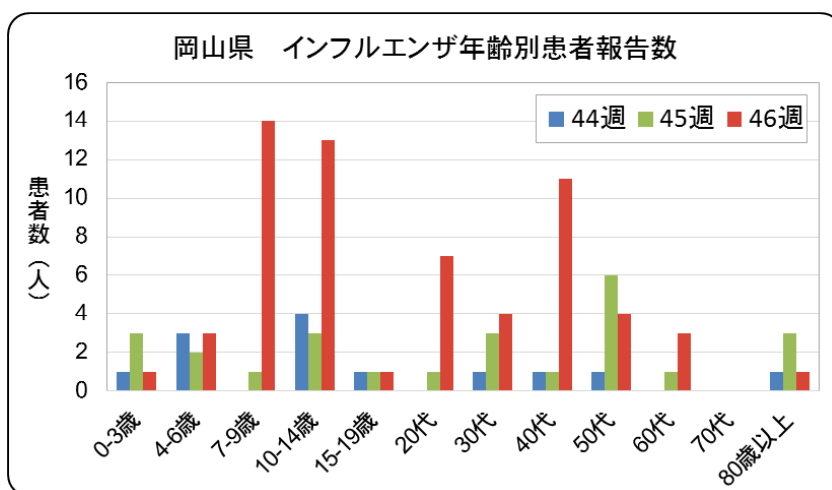
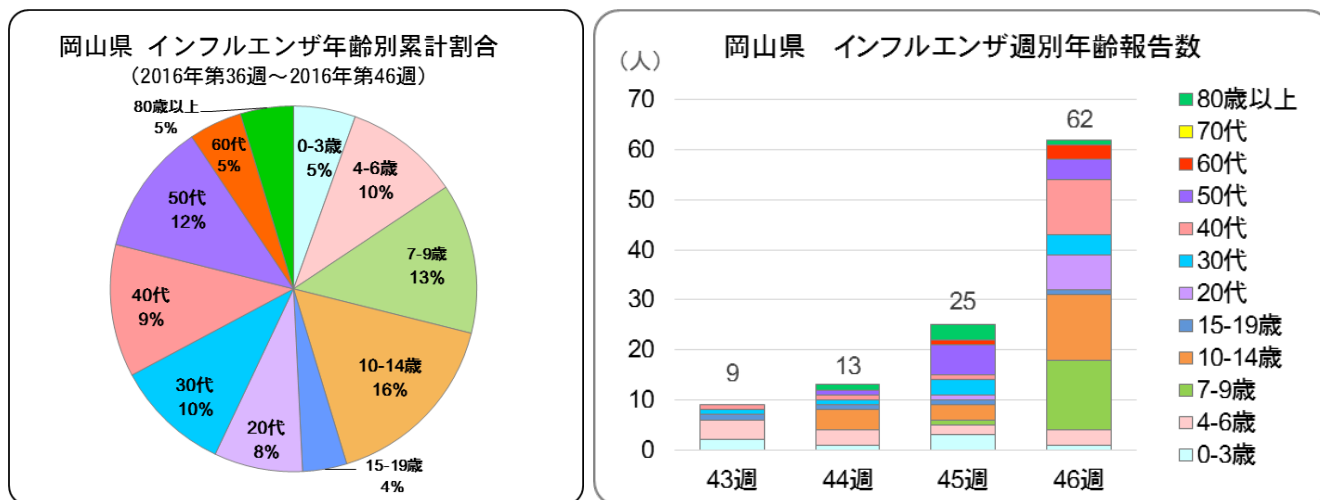
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0



全国集計第45週（11/7～11/13）速報値によると、全国の定点あたり報告数は0.84人となり、前週（0.59人）より増加しました。都道府県別では、沖縄県（7.97人）、栃木県（2.86人）、北海道（1.92人）の順で定点あたり報告数が増えており、39都道府県で前週の報告数より増加しましたが、7県では前週の報告数よりも減少がみられました。

2. 年齢別発生状況

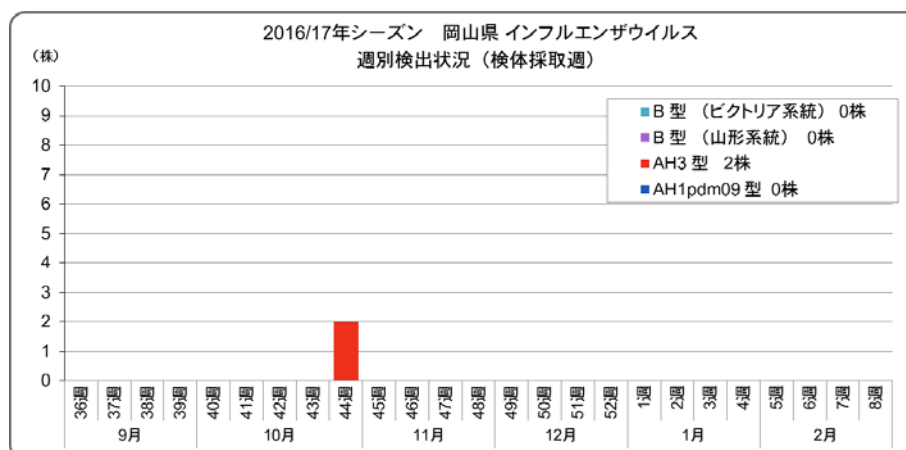
今シーズン（2016/9/5～）の年齢別累計割合は、10-14歳 16%、7-9歳 13%、50歳代 12%の順で高くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第46週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が2株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が164株、AH1pdm09型が19株、B型が4株〔ビクトリア系統3株・山形系統1株〕の順となっています。（2016年11月18日現在）

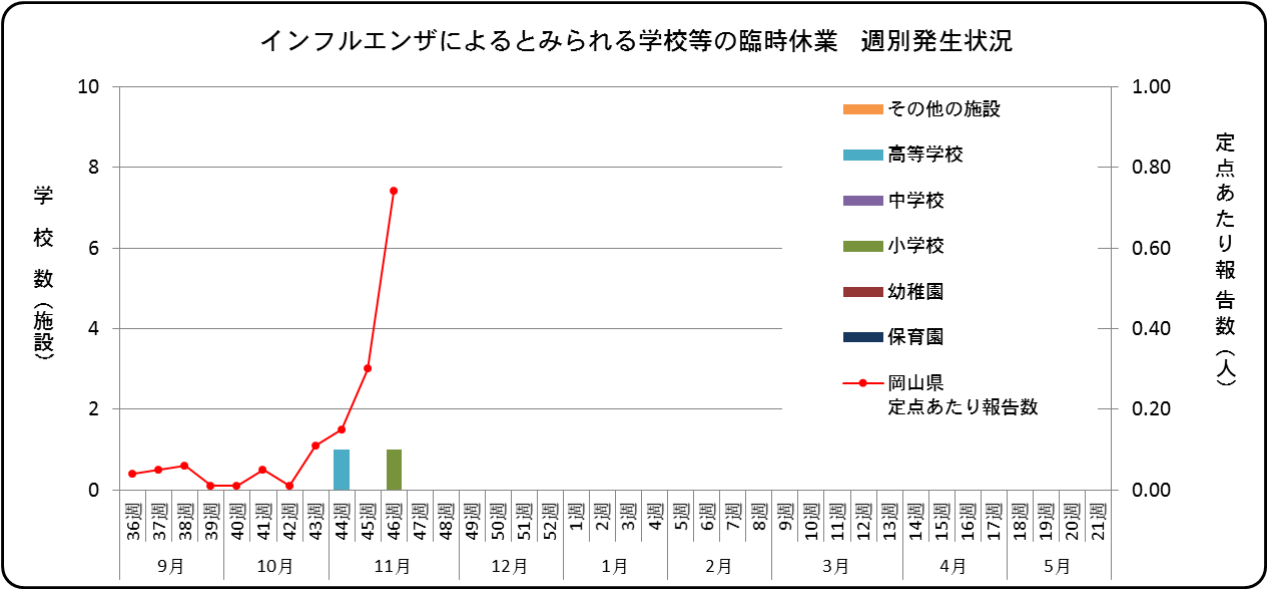


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。

【第46週 臨時休業施設数】

▽津山市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	7	18	7	16	1	2	—	—	1	1	0	1	H28.11.2
岡山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	0	11	0	9	0	1	—	—	—	—	0	1	H28.11.2
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	7	7	7	7	1	1	—	—	1	1	—	—	H28.11.16

2) 臨時休業施設数の内訳

第46週：1施設

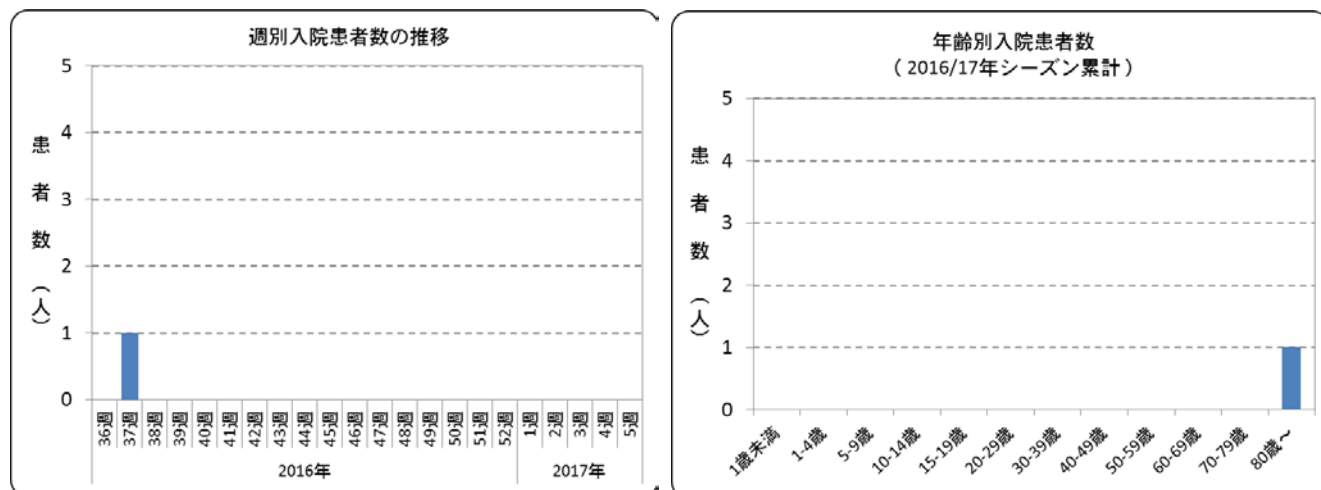
累計：2施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	1	1	—	—	0	1	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2016 年 9 月 5 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数												1	1
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず												1	1

* 重複あり

保健所別報告患者数 2016年 46週(定点把握)

(2016/11/14～2016/11/20)

2016年11月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	62	0.74	1	0.05	10	0.63	2	0.13	1	0.08	35	5.83	—	—	13	1.30
RSウイルス感染症	41	0.76	12	0.86	15	1.36	—	—	2	0.29	2	0.50	—	—	10	1.67
咽頭結膜熱	20	0.37	5	0.36	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	100	1.85	5	0.36	32	2.91	—	—	12	1.71	—	—	1	0.50	50	8.33
感染性胃腸炎	628	11.63	163	11.64	165	15.00	106	10.60	69	9.86	86	21.50	8	4.00	31	5.17
水痘	13	0.24	3	0.21	4	0.36	2	0.20	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	59	1.09	20	1.43	24	2.18	5	0.50	—	—	10	2.50	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	22	0.41	12	0.86	3	0.27	3	0.30	—	—	—	—	—	—	4	0.67
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	29	0.54	9	0.64	12	1.09	7	0.70	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	1	0.25	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	1	1.00	5	5.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 46週(発生レベル設定疾患)

(2016/11/14～2016/11/20)

2016年11月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	62	0.74	1	0.05	10	0.63	2	0.13	1	0.08	35	5.83	—	—	13	1.30
咽頭結膜熱	20	0.37	5	0.36	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	100	1.85	5	0.36	32	2.91	—	—	12	1.71	—	—	1	0.50	50	8.33
感染性胃腸炎	628	11.63	163	11.64	165	15.00	106	10.60	69	9.86	86	21.50	8	4.00	31	5.17
水痘	13	0.24	3	0.21	4	0.36	2	0.20	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	59	1.09	20	1.43	24	2.18	5	0.50	—	—	10	2.50	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	29	0.54	9	0.64	12	1.09	7	0.70	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	1	0.25	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第46週 2016/11/14～2016/11/20)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	62	-	-	1	-	-	1	-	2	2	2	10	13	1	7	4	11	4	3	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	41	8	6	13	8	3	2	-	-	-	1	-	-	-	-
咽頭結膜熱	20	-	1	4	3	3	4	2	1	-	1	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	100	-	6	12	11	11	13	9	5	6	7	7	9	2	2
感染性胃腸炎	628	7	28	83	63	71	70	55	41	23	26	20	41	8	92
水痘	13	-	-	3	3	-	1	-	4	-	-	1	1	-	-
手足口病	59	-	8	27	10	6	5	-	-	1	-	-	-	-	2
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
突発性発疹	22	-	8	10	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	29	-	1	2	2	3	-	6	6	4	1	1	2	-	1

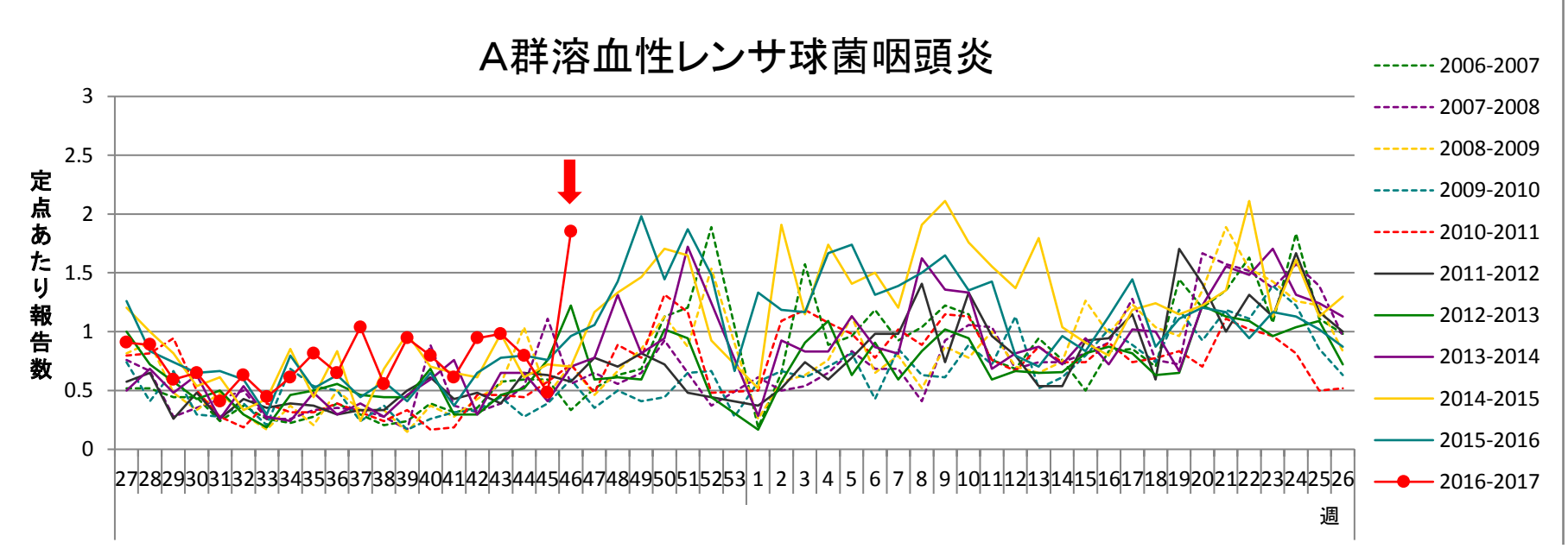
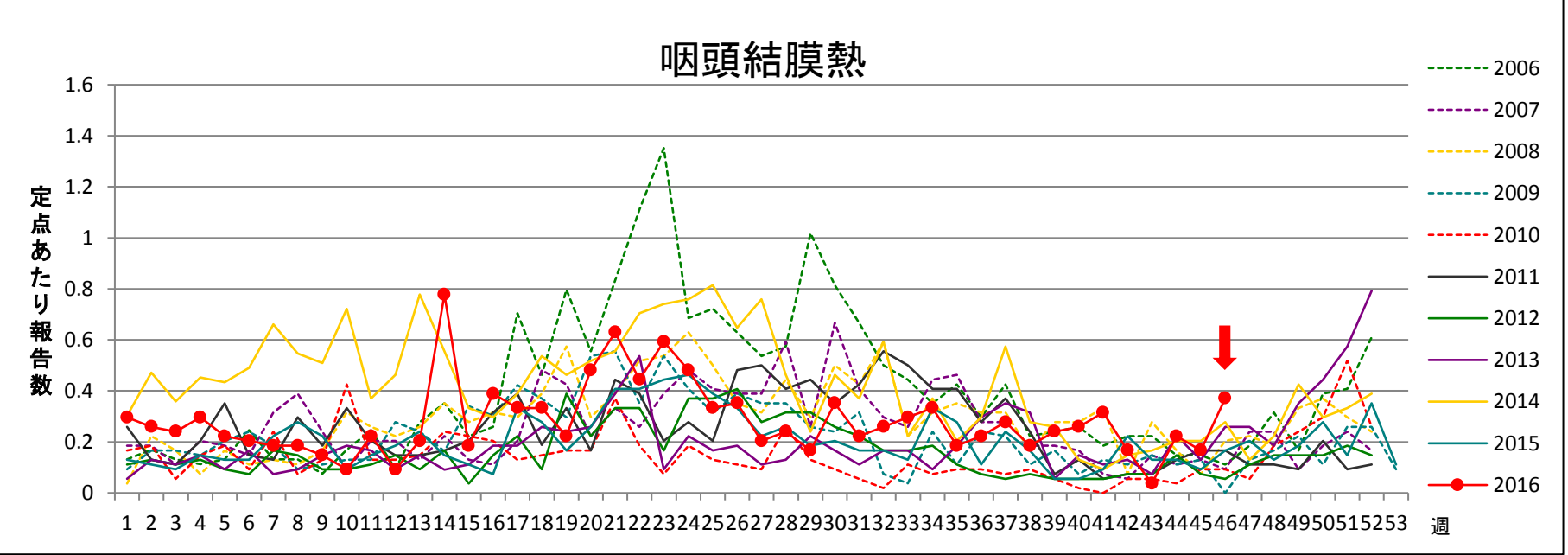
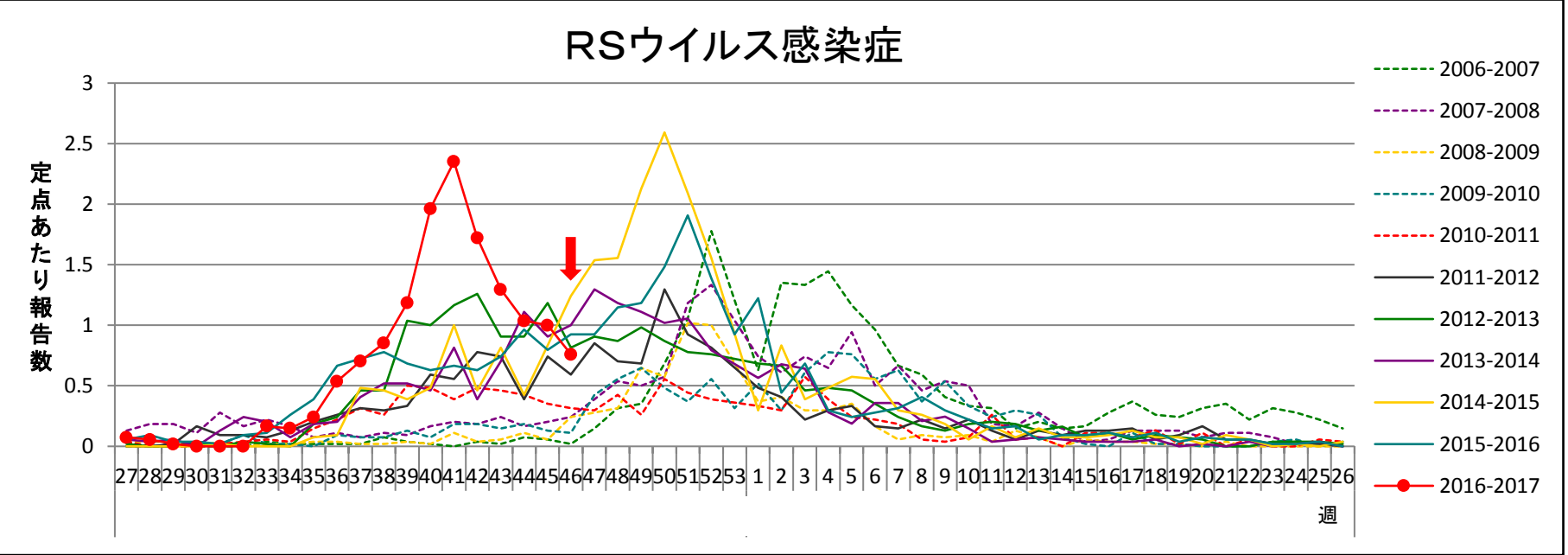
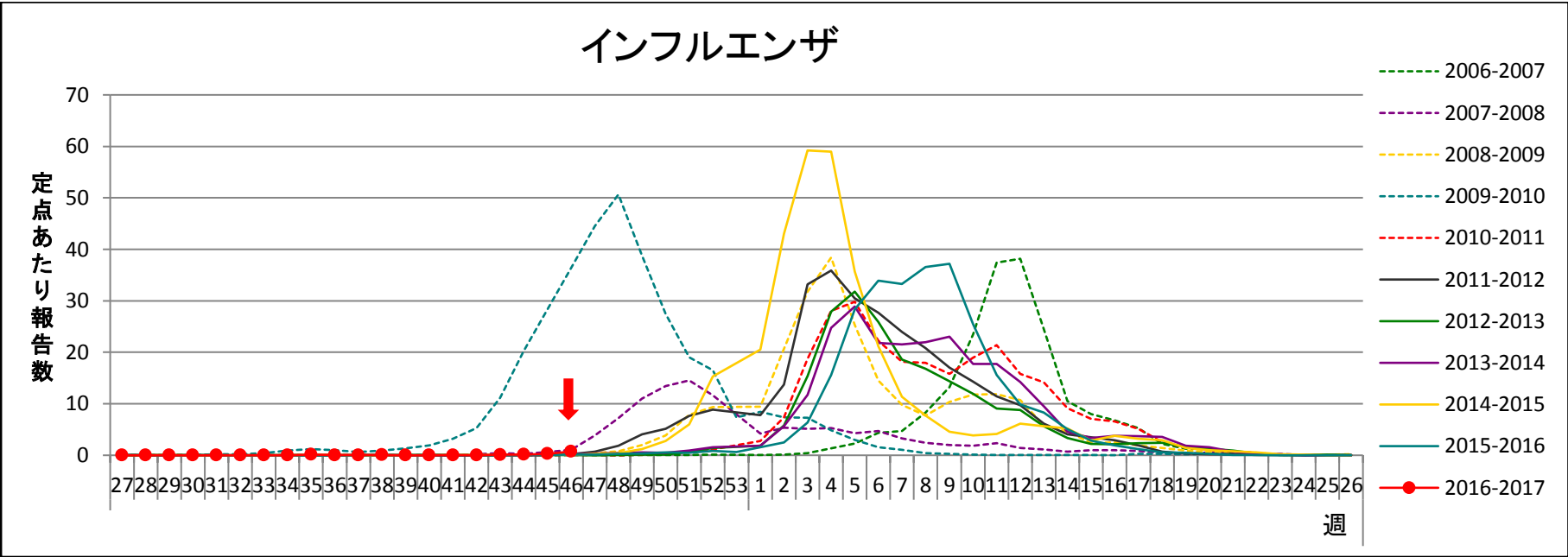
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	1	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

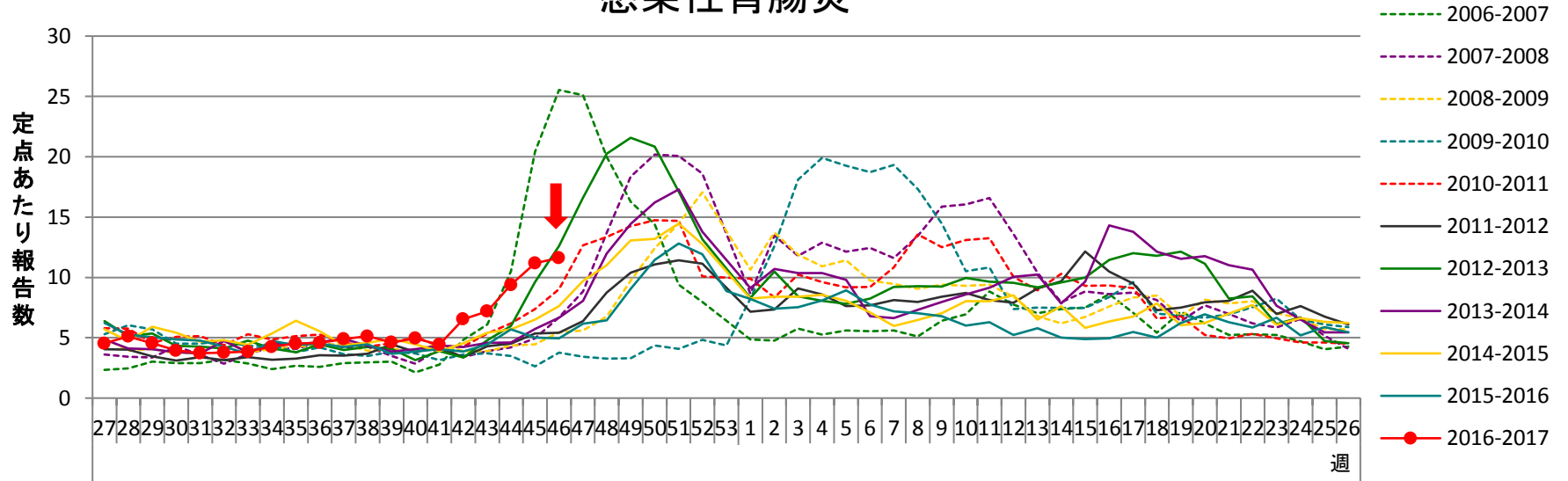
(- : 0)

2016 年 46 週

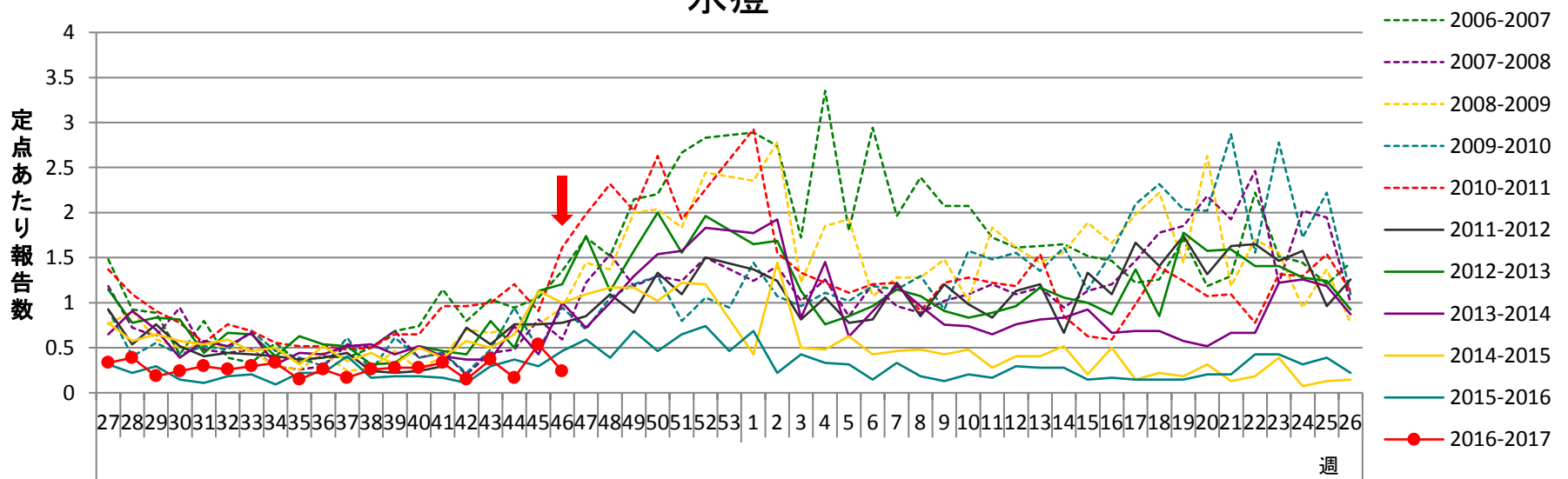
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	263	374	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	2	腸管出血性大腸菌感染症	2	63	63
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	4	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	3	9
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	1
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	1	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	1
	デング熱	－	1	2	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	1	－	日本紅斑熱	－	4	3
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	25	28
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	17	17	ウイルス性肝炎*3	－	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	26	34
	急性脳炎*4	－	8	14	クリプトスポリジウム症	－	－	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	7	2	後天性免疫不全症候群	－	9	21	ジアルジア症	－	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	6	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	2	27	35
	水痘(入院例に限る。)	－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	33	25
	播種性クリプトコックス症	－	1	1	破傷風	－	3	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	1	－	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



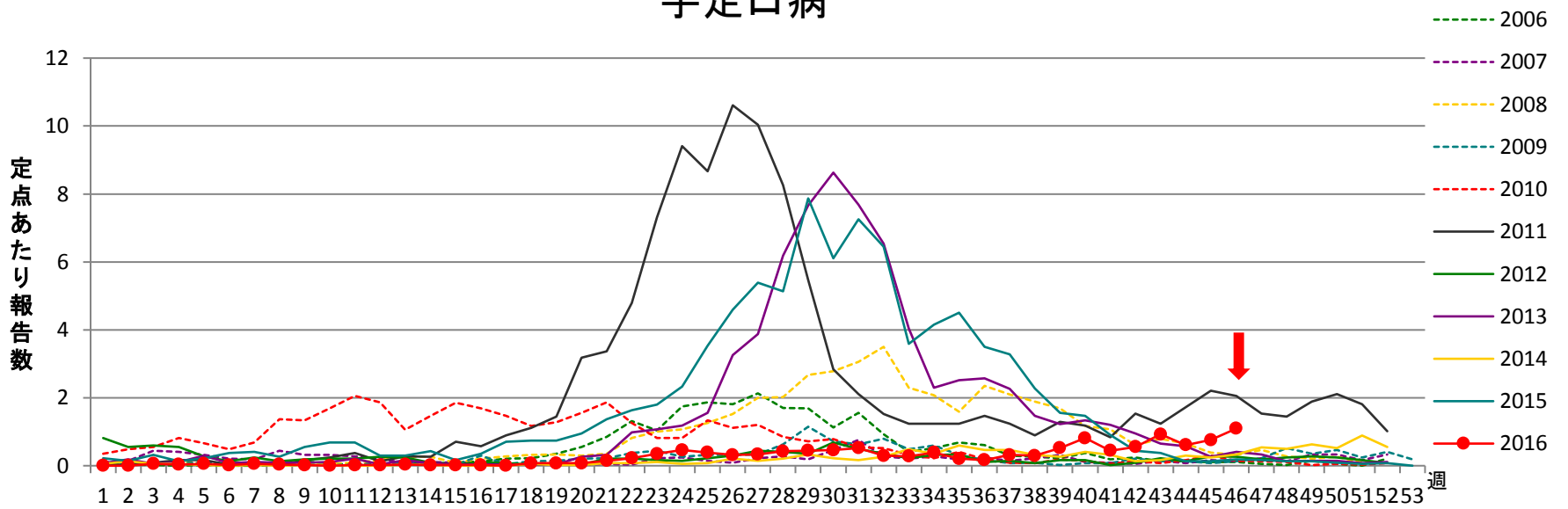
感染性胃腸炎



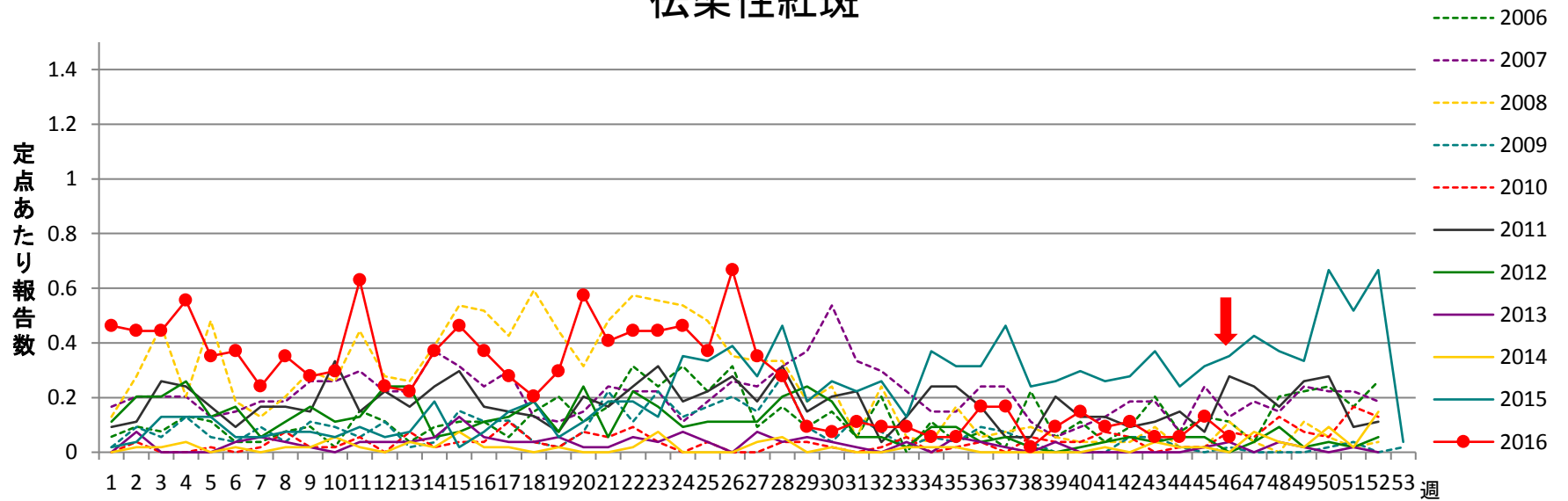
水痘



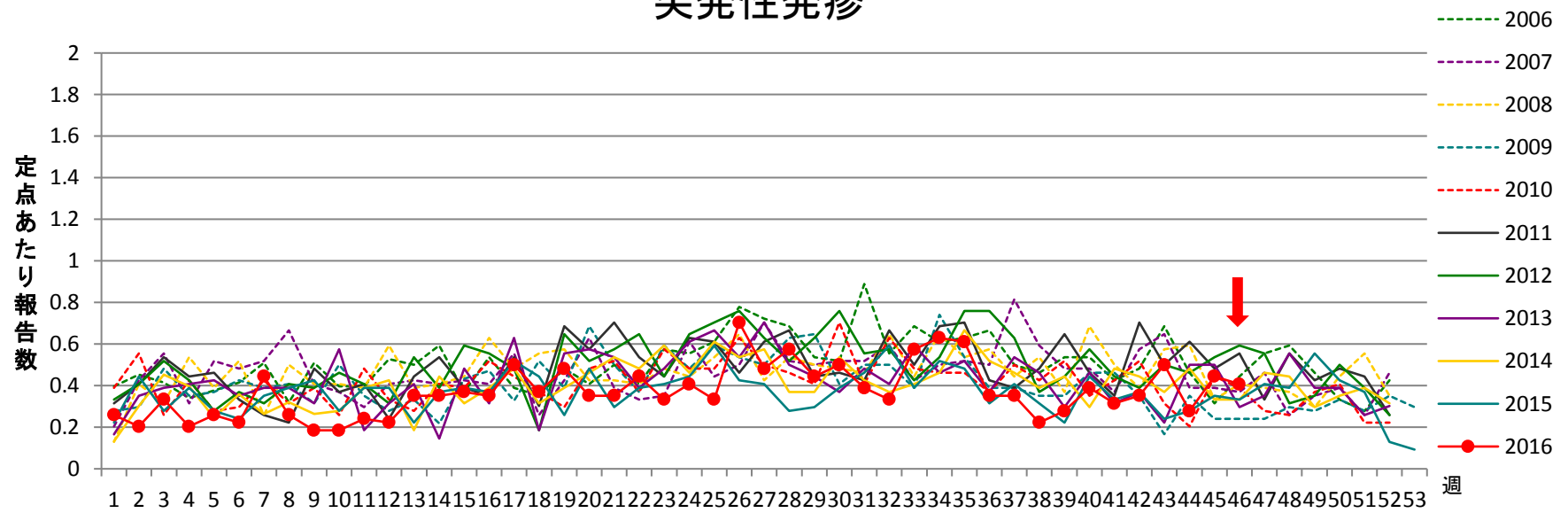
手足口病



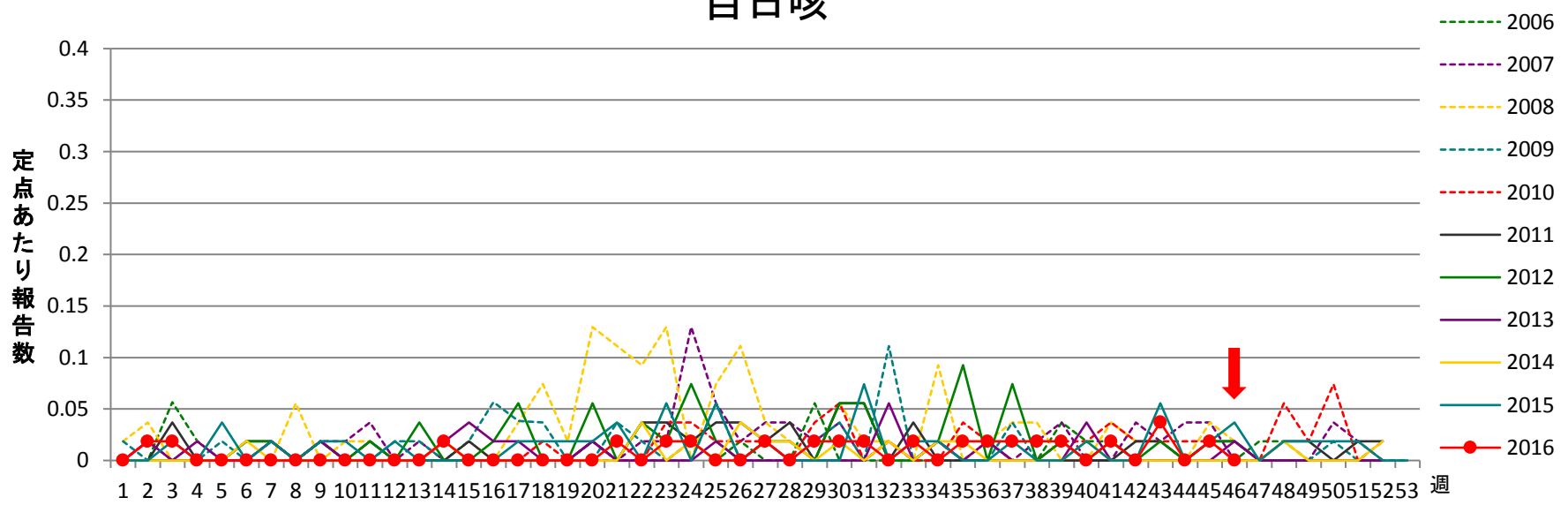
伝染性紅斑



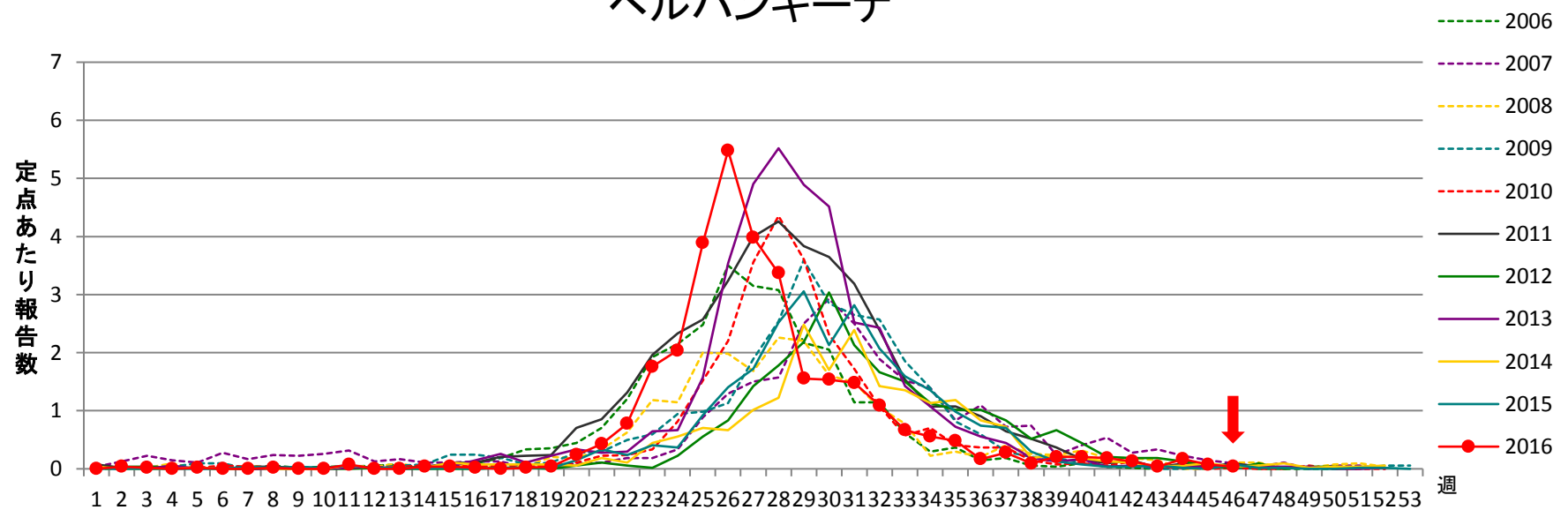
突発性発疹



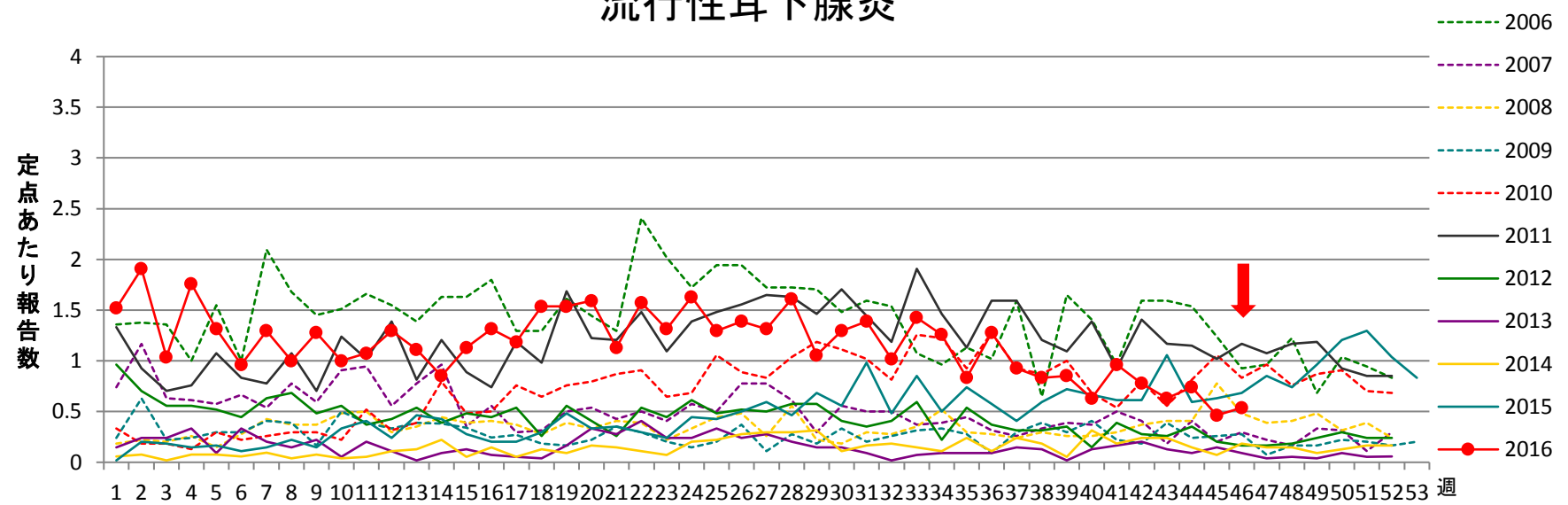
百日咳



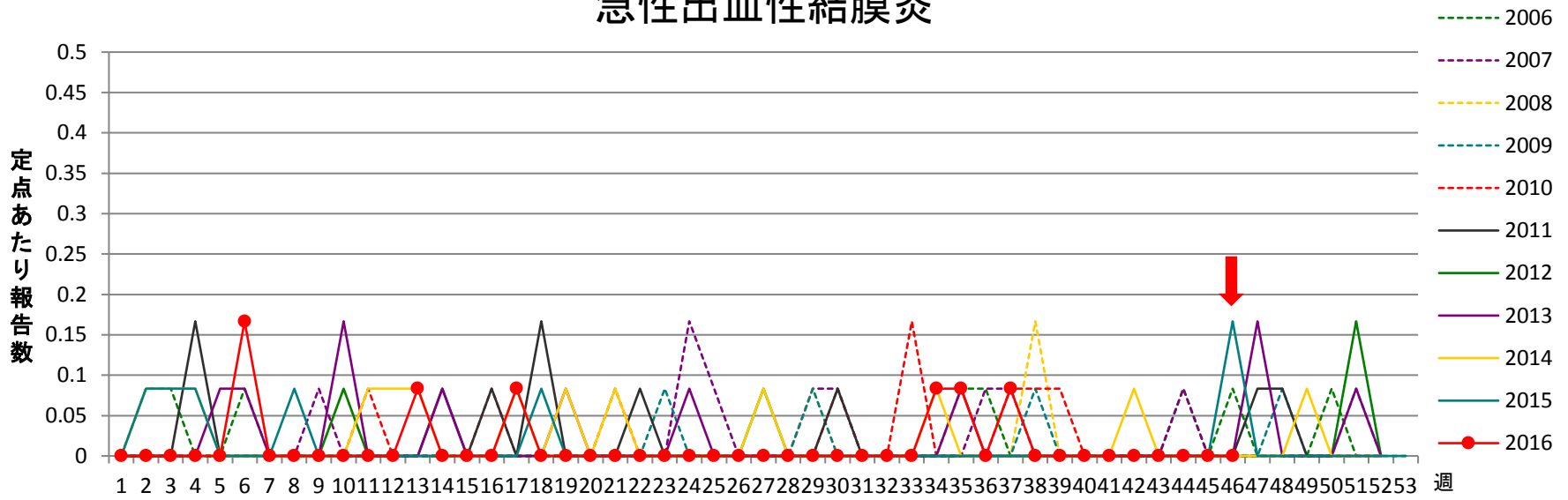
ヘルパンギーナ



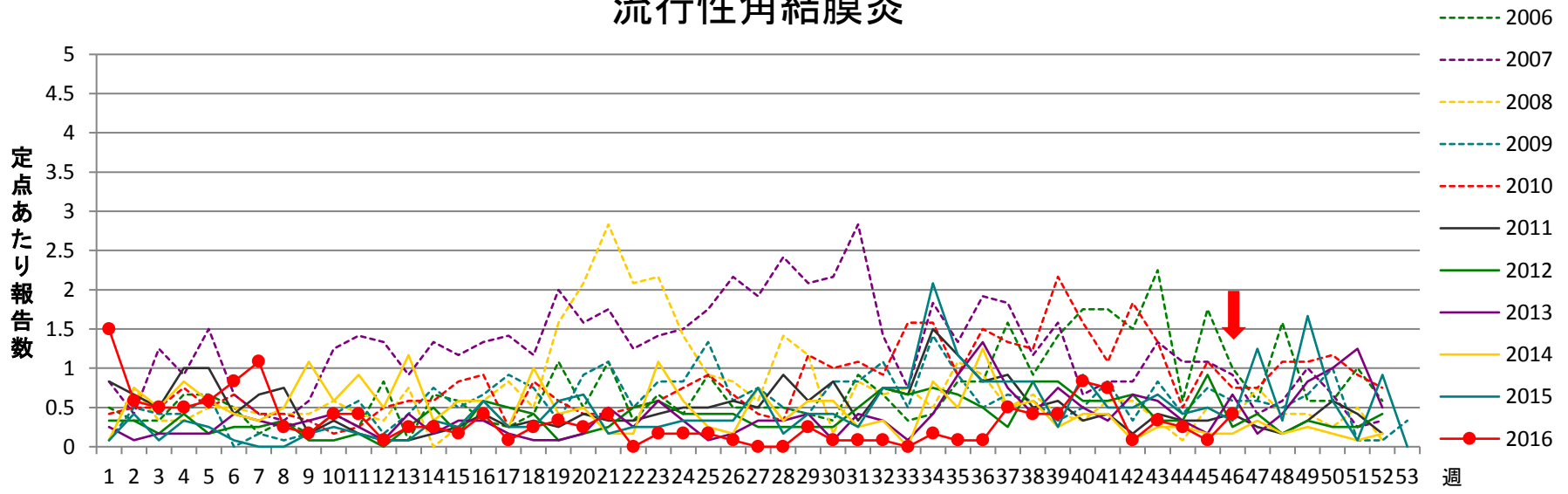
流行性耳下腺炎



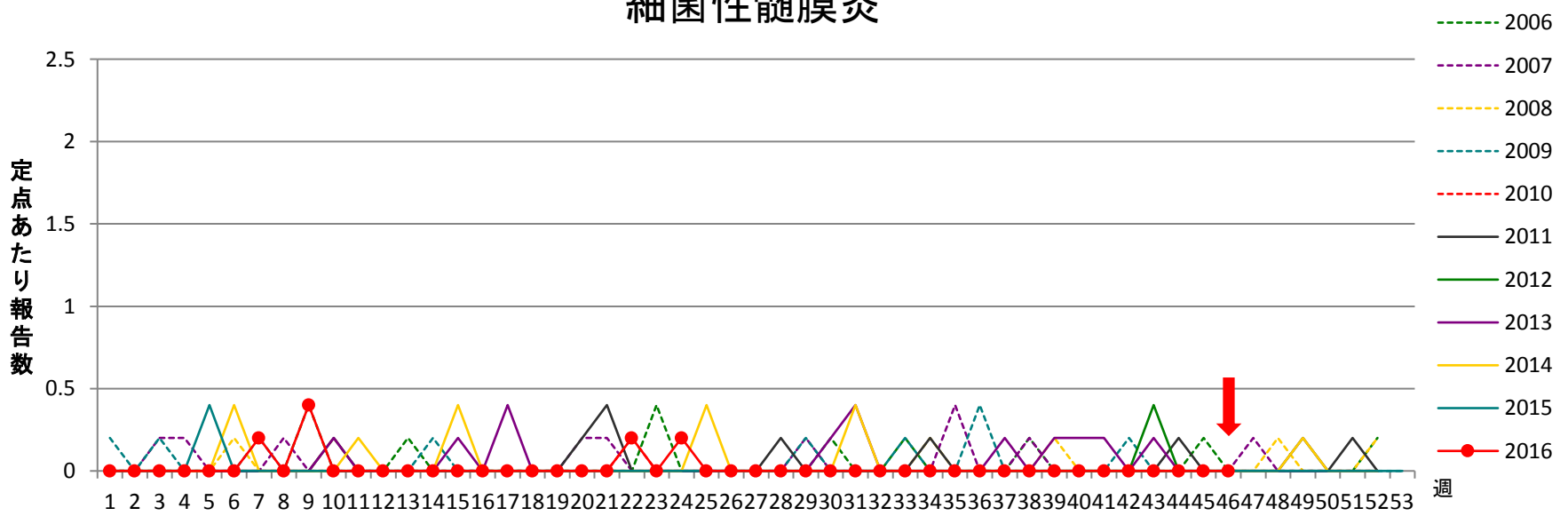
急性出血性結膜炎



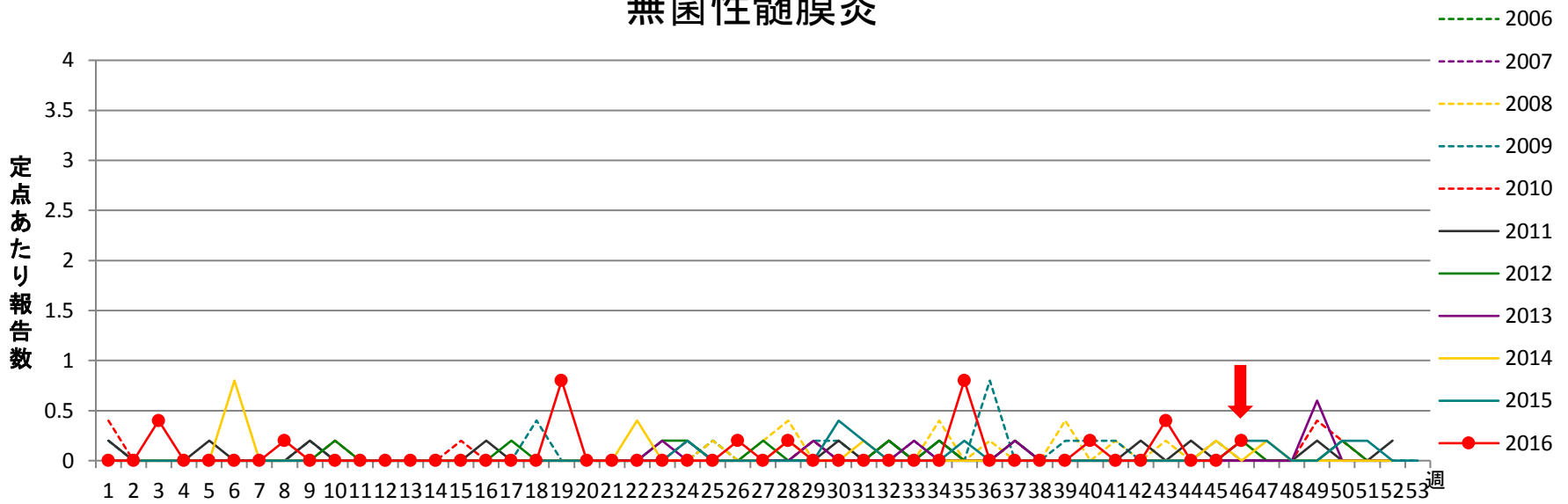
流行性角結膜炎



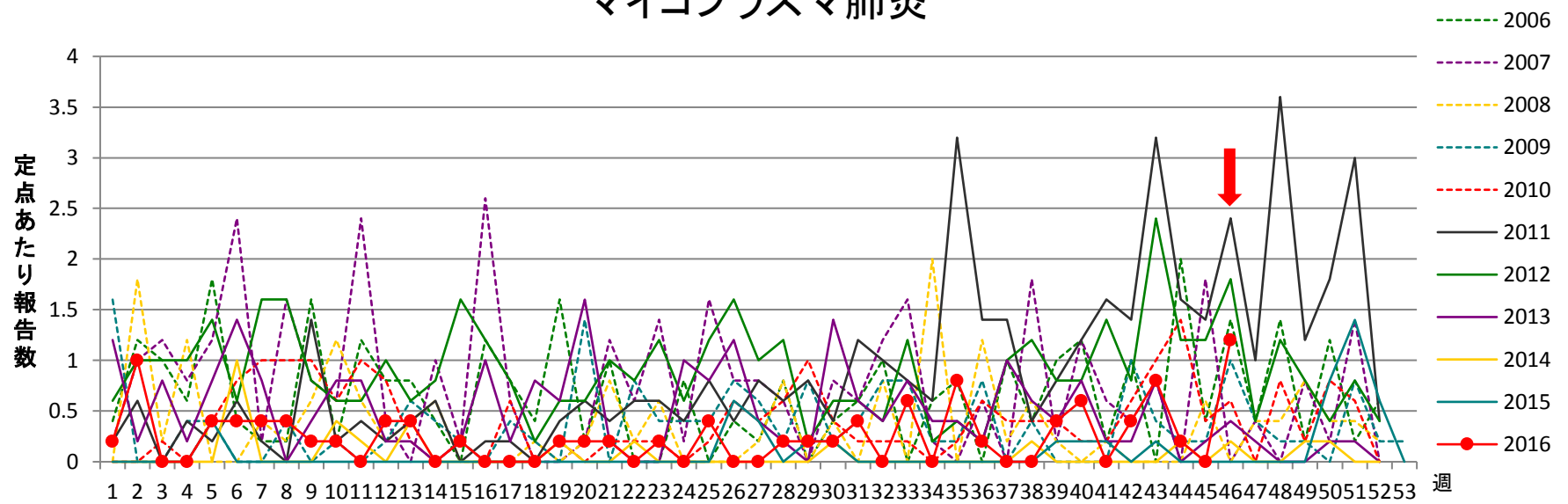
細菌性髄膜炎



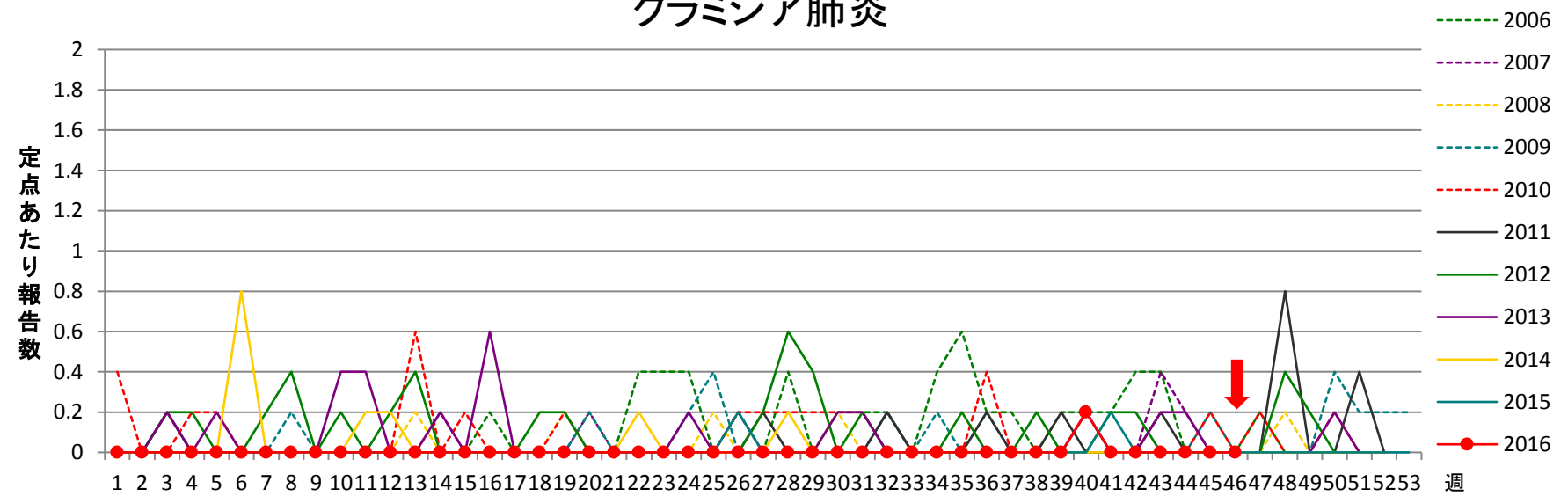
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

